

世界における川崎病発生状況

— 文献学的考察 —

(分担研究：川崎病の疫学的研究)

中村好一,* 柳川 洋**

要約 可能な限り文献を収集し、海外における川崎病発生状況の一端を明らかにした。

見出し語：川崎病，海外での発生状況，疫学

研究方法 Index MedicusでKey Word を Mucocutaneous Lymph Node Syndrome としている論文を検索し、これに今日までに入手し得た論文を加えて、患者の居住国ごとに発生状況、流行状況をまとめた。

結果 日本以外の33の国・地域からの川崎病発生に関する論文を入手することができた。以下に各国・地域の発生状況を示す(アルファベット順)。

1. Australia

1974年にRoyal Children's Hospital (Melbourne)にて初めて川崎病と診断された患者が出た(Carman, 1983 a)。1976年にはSplinitisを伴う1症例が報告されている(Carter, 1976)。MelbourneのRoyal Children's Hospitalでは1981年7～9月(冬の終わり)に7名の新患がでた。通常は毎月1～3名である(Carman, 1983b)。

2. Belgium

3歳半のベルギー人少年の例(Corbeel, 1977)、およびBruxellesにて3人の患者の発生(Heene,

1982)が報告されている。

3. Brazil

1980年から1982年にかけてSao Pauloで7例(すべて男)発生したことが報告されている(Sakane, 1983)。これとは別に1982年から1986年にかけてSao pauloで15例観察(男12, 女3)されている(Jacob, 1986)。

4. Canada

1973年に冠動脈瘤で突然死した10歳男児は4.5歳のときに発熱、頸部リンパ節腫脹, Desquamationがあり、川崎病が疑われた(Wentworth, 1976)。EdmontonのUniversity of Albertaからは4歳女、4歳男の2例が報告された(Russell, 1975)。1979年から1983年にかけてMontrealのHospital Sainte-Justineを106名の患者が受診したが1982年10月～1983年6月に患者の集積が見られた(Fournier, 1985)。1979年から1982年の間に357例が15の大学より報告され、1980年と82年に流行が見られた。Canadaにおける罹患率は上昇してきている(Rowe, 1985)。

* 福岡県京都保健所 (Miyako Public Health Centre, Prefectural Government of Fukuoka)

** 自治医科大学公衆衛生学教室 (Dept. of Public Health, Jichi Medical School)

5. China (People's Republic of China)

上海より10例(俞, 1978), 南京, 四川, 北京, 杭州, 河南から合計11例(胡, 1979)が報告されている。

6. Denmark

年間2~4名の患者が発生していることが推定されている(Salo, 1987)。

7. East Germany

1943年に17カ月の女兒が冠動脈瘤で死亡したが, その病理標本を観察すると川崎病と同一であった(Dietzsch, 1983)。Dummerstorfにて29歳の男の患者(Graessner, 1983), 1982年から1985年にかけてLeipzigにて8名の患者(Doerfer, 1985)が報告されている。

8. Finland

1981年6月から1982年3月にかけて83例が発生した。Attack rateは26/100 000(0~4歳)で, 流行は南から北へ移動した(Salo, 1986)。しかしこの後は, 患者の集中発生はない(Salo, 1987)。

9. France

1982年にProvinsにて12歳男児が発病している(Kubryk, 1984)。

10. Greece

1975年6月から7月にかけてAthensで6名の患者が発生している(Valaes, 1975)。

11. India

1976年に発病した4歳男児がインド初の症例として報告されている(Taneja, 1977)。

12. Indonesia

1980年にManadoのUniversity of Sam Ratulangiで4歳10か月女児, 5か月女児の2例が発生したことが報告されている(Ongkie, 1983)。

13. Israel

Israelからの初めてのまとまった患者報告として13名のケースレポートがある(Keren, 1983)。これとは別にTel Aviv Medical Centerから5歳女児の報告がある(Melamed, 1986)。

14. Italy

CesenaのM. Bufalini Hospitalより6歳男, 10歳男の2例の報告がある(Porta, 1977)。1981年から82年にかけてFriuli-Venezia Giulia region (North-east Italy)にて19名の患者が発生し, そのうち11名が春に発病したものであった。特に1982年4月, 5月に集中発生(各月3名づつ)が見られた(Tamburlini, 1983 and Tamburlini, 1984)。また1983年から85年にかけてPisa Paediatric Clinicにて7名の患者が診察を受けた(Ceccarelli, 1986)。

14. Jamaica

8か月のnigro男児(1979年), 2歳のnigroの女児(1981年), 2歳のnigro女児(1982年)の3例がWest Indiesにおける最初の例として報告されている(John MAS, 1983)。

16. Kuwait

1975年に10歳のKuwait人男児, 1977年に5歳の英国人男児の症例が発生したことが報告されている(Majeed, 1978)。

17. Malaysia

5歳の中国人女児(1977年), 4歳のインド人男児(1978年), 2歳のインド人男(1979年)の3例がUniversity Hospital, Kuala Lumpurからマレーシアにおける最初の例として報告されている(Sinniah, 1979)。

18. Mexico

川崎病の診断を受けた患者が存在することがCenters for Disease Control(USA)にて確認されている(CDC, 1978)。

19. Netherlands

University of Amsterdamにて16か月の女児が冠動脈破裂で死亡し, 川崎病が疑われた(Becker, 1976 and Becker, 1977)。

1981年から83年にかけて, British Society for the study, of InfectionへLeidenより4名報告されている(Gray, 1984)。

20. Norway

1986年にOsloのUllevål Hospitalにて4例が確認されている(Salo, 1987)。

21. Philippines

川崎病の診断を受けた患者が存在することがCenters for Disease Control (USA)にて確認されている(CDC, 1978)。

22. Portugal

20歳の女性がPortugalからの初めての例として報告されている(Proenca, 1983)。

23. Singapore

1984年に3か月の中国人男児、15か月の中国人女児、9か月中国人男児の3例が発生したことが報告されている(Tan, 1985)。

24. South Korea

1972年、1973年に8名の患者が発生している。これは日本以外での最初の報告例である(Kim, 1973)。韓国では1980年より年1回のsurveyを実施している。1972年より患者が発生し、患者数は年ごとに増加、1982年136名、1983年512名、1984年465名、1985年374名、1986年251名(1~6月)が報告されており、Seoul, Taegu, Pusanなど都市部に多い(Lee, 1985, and Lee, 1987)。

25. Spain

川崎病の診断を受けた患者が存在することがCenters for Disease Control (USA)にて確認されている(CDC, 1978)。

26. Sri Lanka

6歳女児、1歳男児、6歳女児、2歳女児の4例が報告されている(Harendra de Silva, 1985)。

27. Sweden

冠動脈瘤を伴う4症例がScandinaviaにおける最初の例として報告されている(Aklstroem, 1977)。さらに1977年から84にかけて120例が確認されている(Salo, 1987)。

28. Taiwan

川崎病の診断を受けた患者が存在することがCenters for Disease Control (USA)にて確認されている(CDC, 1978)。台湾では1984年1月に開催された中華小児科醫學會第九十七屆學術講演會の特別演題で川崎病が取り上げられ、疫学調査の結果北部(含台北)から193例、中部地区から48例、高雄台南地区から28例が報告されている。

29. Thailand

1978年から83年にかけてSongkhaで4名(2歳男児、9か月女児、5か月男児、7歳女児)が発生したことが報告されている(Sanguanchua, 1985)。

30. Turkey

AnkaraのHacettepe Children's Hospital Medical Centerからトルコ人2.5歳男児の症例が報告されている(Hicsoenmez, 1977)。

31. United Kingdom

1970年にEdinburghのWestern General Hospitalで5か月の白人女児が治療を受けている(Modi, 1985)。LondonでJamaica girlsの姉妹(2歳と4.5歳)がほぼ同時に発病している(Lyen, 1978)。1981年から83年にかけてBritish Society for the Study of Infectionへ22名の患者が報告されているが、季節変動は認められていない(Gray, 1984)。また、1981年5月から83年5月にかけてGlasgowのThe Royal Hospital for Sick Childrenにて20名の患者(14:白人, 3:黒人, 2:アジア人, 1:日本人)が治療を受けている(Novelli, 1983)。

32. United State of America

1971年から75年にかけてHawaiiのKauaikeolani Children's Hospitalで16例の症例が観察された(Melish, 1976)。1972年にはArizonaのTucsonで3歳の白人女児が罹患している(John TJ, 1976)。1975年から

77年にかけて Centers for Disease Control (CDC) へ232例(含容疑例)が報告されており、このうち十分な情報が得られた117名中112名が川崎病であった(CDC, 1978)。1976年7月から1978年7月までに261名がCDCへ報告され、患者の発症は冬から春にかけて多く、7月から10月は少なかった(Morens, 1980)。1976年から80年にかけて523例がCDCに報告され、1978年春から夏、1980年春から夏にかけて症例が増加していた。しかし Person-to-person transmission は認めなかった(Bell, 1983)。1978年にはHawaiiのOahu島で2月から8月に33名(5歳未満人口10万対74)の患者が発生している。この罹患率は、これまでの7倍であった(Melish, 1981 and Dean, 1982)。1979年にはNew York州のRochesterで10月から12月にかけて流行が見られ、23名の患者の内20名がMonroe Countyからの者であった。この3か月の罹患率は44.8(5歳未満人口10万対)であった(CDC, 1980a and Bell, 1981)。1980年3月から6月にかけてMassachusetts州の東部及び中央部で流行があった。57名の患者。罹患率は3か月で16.5で、地域集積性は認めなかった(CDC, 1980b and Bell, 1981)。1981年にはNew York州Rochesterで20か月黒人男児といとこの2歳黒人男児が2週間隔で発病しており、この二人は濃厚な接触があった(Schnaar, 1982)。1983年には4歳のAlaskan Eskimoの子供が発病しており、これはEskimoからの最初の報告であった。アラスカの小児科医の話では他に12名の小児が1982年から1985年にかけて川崎病の診断を受けている(Toomey, 1985)。1984年8月から1985年1月にかけて米国各地で流行がみられた。Northern Colorado(Denver) and Southern Wyomingで47例、E eastern North Carolinaで28例、Texas(Houston)

で10例、Virginiaで11例、Massachusetts(Boston)で30例、Washington州で11例、California(Oakland/San Francisco)で12例、Indianaで20例、Washington D.C.で11例、Tennessee(Memphis)で7例発生した(CDC, 1985)。また、Virginiaからは Identical twin のほぼ同時発生が報告されている(Fink, 1985)。

33. West Germany

1976年にWuerzburgで6歳のGerman-Americanの男児が発症した。ヨーロッパで最初の症例であり、発病6か月前までUSAのMarylandに居住していた(Stephenson, 1977)。1978年から81年にかけて全国63の医療機関より140名の患者が報告された。1978年10月から12月にかけて新患が集中していたが、明白な地域集積性は認めなかった(Cremer, 1981)。またこの他に4か月の男児の症例報告がある(Mezger, 1983)。

以上のように33の国・地域から川崎病患者の報告がなされているが、この中で川崎病の流行(患者の時間的な集積)が報告されているのは、Australia, Canada, Finland, Italy, South Korea, United States of America, West Germany などであり、これらはいずれも比較的報告患者数が多い国であった。

文 献

Ahlstroem H, Lundstroem NR, et al.(1977): Infantile Periarthritis Nodosa or Mucocutaneous Lymph Node Syndrome. Acta Paediatr Scand, 66, 193-198.

Beacker AE(1976): Kawasaki Disease. The Lancet, 1, 864.

Becker AE (1977): Mucocutaneous Lymph Node Syndrome of Infantile

Polyarteritis Nodosa? Pediatrics, 60(5), 774.

Bell DM, Brink EW, et al. (1981): Kawasaki Syndrome: Description of Two Outbreaks in the United States. The New England Journal of Medicine, 304 (26), 1568-1575.

Bell DM, Morens DM, et al. (1983): Kawasaki Syndrome in the United States 1976 to 1980. Am J Dis Child, 137, 211-214.

CDC (1978): Kawasaki Disease-United States. MMWR, 27 (2), 9.

CDC (1980a): Kawasaki Disease-New York. MMWR, 29 (6), 61-63.

CDC (1980b): Kawasaki Disease-Massachusetts. MMWR, 29 (31), 369-371.

CDC (1985): Multiple Outbreaks of Kawasaki Syndrome-United States. MMWR, 34 (3), 33-35.

Carman P and Menahem S (1983a): Cardiovascular Manifestations of Kawasaki Disease Royal Childrens Hospital, Melbourne, Experience 1974-1981. Australian Pediatric Journal, 19, 107-108.

Carman P and Menahem S (1983b): Possible Outbreak of Kawasaki Disease in Victoria. The Medical Journal of Australia, 2(4), 183-185.

Carter RF, Haynes ME, et al. (1976): Rickettsia-like Bodies and Splenitis in Kawasaki Disease. The Lancet, 2, 1254-1255.

Ceccarelli M, Lupetti L, et al. (1986): La Sindrome di Kawasaki

Contributo casistico. Minerva Pediatrica, 38(13-14), 579-588.

Corbeel L, Delmotte B, et al. (1977): Kawasaki Disease in Europe. The Lancet, 1, 797.

Cremer H, Kleihauer E, et al. (1981): Das Kawasaki-Syndrom (mukokutanenes Lymphknoten syndrom=MCLS) in der Bunderepublik. Pediat Prax, 25, 243-260.

Dean AG, Melish ME, et al. (1982): An Epidemic of Kawasaki Syndrome in Hawaii. The Journal of Pediatrics, 100 (4), 522-527.

Dietzsch HJ (1983): Kawasaki-Syndrom: Koronarkomplikationen bereits vor 40 Jahren beobachtet Dt. Gesundheitswesen, 38, 751-755.

Deorfer VJ and Waesser S (1985): Beobachtungen bei Patienten mit akuten mukokutanem Lymphknotensyndrom (MCLS, Kawasaki-Syndrom). Kinderaerztl Praxis, 53, 267-275.

Fink HW (1985): Simultaneous Kawasaki Disease in Identical Twins: Case Report. Virginia Medical, 112 (4), 248-251.

Fournier A, Doesburg NHV, et al. (1985): La maladie de Kawasaki Aspects epidemiologiques et manifestation cardio-vasculaires A propos de 106 observations. Arch Mal Coeur, 78 (5), 693-698.

Graessner U (1983): Das mikokutane Lymphknotensyndrom-Kawasaki-Syndrom. Kinderaerztliche Praxis, 50(8), 385-391.

- Gray JA and Welsby PD (1984): Kawasaki Disease: A Report of 26 Patients. *Journal of Infection*, 9, 17-21.
- Harendra de Silva DG, Perera DJB, et al.(1985): Kawasaki Disease in Sri Lanka. *Ceylon Medical Journal*, 30(4), 187-191.
- Heene M, Lorent A, et al.(1982): Trois cas de syndrome de Kawasaki. *Dermatologica*, 165, 472-476.
- Hicsoenmez G, Kanra G, et al. (1977): Acute Febrile Mucocutaneous Lymph Node Syndrome. *Clinical Pediatrics*, 16(5), 480-481.
- Jacob CMA, Pastorino AC, et al. (1986): Síndrome de Kawasaki Descripción clínico-laboratorial de 15 casos. *Rev Ass Med Brasil*, 32(7-8), 123-126.
- John MAS and Ishmael RG (1983): Kawasaki Disease in Barbados. *West Indian Med J (JAMAICA)*, 32, 50-55.
- John TJ, DeBenedetti CD, et al. (1976): Mucocutaneous Lymph Node Syndrome in Arizona. *Am J Dis Child*, 130, 613-614.
- Keren G, Barzilay Z, et al.(1983): Mucocutaneous Lymph Node Syndrome (Kawasaki Disease) in Israel. A Review of 13 Cases: Is Pseudomonas Infection Responsible? *Acta Paediatr Scand*, 72, 455-458.
- Kim JI, Yeo YK, et al.(1973): Mucocutaneous Lymphnode Syndrome—Clinical Observation of Eight Cases—. *月刊最新醫學 (The New Medical Journal)*, 16(10), 1157-1162.
- Kubryk M and Borde M (1984): Le syndrome de Kawasaki A propos d'une observation. *Sem Hop Paris*, 60(8), 583-587.
- Lee DB (1985): Epidemiologic Survey of Kawasaki Syndrome in Korea(1976-1984). *The Journal of Catholic Medical College*, 38(4), 13-19.
- Lee DB (1987): Epidemiology of Kawasaki Disease in Korea. *Kawasaki Disease (Shulman, ST ed.)*, p55-60, Alan R. Liss, Inc.(New York), 1987.
- Lyen KR and Brook CGD(1978): Mucocutaneous Lymph Node Syndrome in Two Siblings. *British Medical Journal*. 1, 1187.
- Majeed HA and Olson IA(1978): Kawasaki Disease in Kuwait. A Report of Two Cases. *Acta Paediatr Scand*, 67, 525-528.
- Melamed I, Diamant S, et al.(1986): Kawasaki Disease with Serological Evidence of Streptococcal Infection. *Infection*. 14(2), 91-92.
- Melish ME, Hicks RM, et al. (1976): Mucocutaneous Lymph Node Syndrome in the United States. *Am J Dis Child*, 130, 599-607.
- Melish ME (1981): Kawasaki Syndrome: A New Infectious Disease? *The Journal of Infectious Disease*, 143(3), 317-323.
- Mezger J, Kroczeck RA, et al. (1983): Das Kawasaki-Syndrom. *Mukokutanes Lymphknotensyndrom. medwelt (West Germany)*, 34(39),

1085-1090.

Modi N, Syme J, et al.(1985):
Infection and Immunology in the
Mucocutaneous Lymph Node Syndrome:
A Report of 4 Cases. The British
Journal of Clinical Practice,39(3),
118-120.

Morens DM, Anderson LJ, et al.
(1980): National Surveillance of
Kawasaki Disease. Pediatrics, 65 (1),
21-25.

Novelli VM, Marshall WC, et al.
(1983): Kawasaki Disease in London.
The Lancet, 1, 172.

Ongkie AS (1983): Mucocutaneous
Lymph Node Syndrome Report of Two
cases and Brief Review of Related
Literature. Paediatrica Indonesian,
23, 250-258.

Porta GD and Alberti A (1977):
Kawasaki Disease in Europe. The
Lancet, 1, 797-798.

Proenca R, Sousa MD, et al.(1983)
:A Case of Kawasaki Disease in
Portugal. Acta Medica Portuguesa,
4, 97-99.

Rowe RD and Rose V (1985):
Kawasaki Disease: Canadian Update.
Can Med Assoc J,132, 25-28.

Russell AS, Zaragoza AJ, et al.
(1975): Mucocutaneous Lymph Node
Syndrome in Canada. Can Med Assoc
J, 112, 1210-1211.

Sakane PT, Mendonca JS,(1983):
Doença de Kawasaki (síndrome muco-
cutânea linfonodal). Relato de
sete casos e breve revisão. Rev

Paul Med, 101(2), 62-67.

Salo E, Pelkonen P, et al.(1986)
: Outbreak of Kawasaki Syndrome in
Finland. Acta paediatrica Scand, 75,
75-80.

Salo E (1987): Epidemiology of
Kawasaki Disease in Northern Europe.
Kawasaki Disease (Shulman, ST ed.),
p67-70, Alan R. Liss, Inc.(New York)
1987.

Sanguanchua P, Patamasucon P, et
al (1985): Kawasaki Disease in Songkla,
Thailand Southeast Asian J Trop Med
Pub Hlth 16 (1), 104-109.

Schnaar DA and Bell DM (1982) :
Kawasaki Syndrome in Two Cousins
with Parainfluenza Virus Infection.
Am J Dis Child, 136, 554-555.

Sinniah D, Nafappan N, et al.
(1979): Mucocutaneous Lymph Node
Syndrome in Malaysia. Med J Malaysia,
34(2), 164-166.

Stephenson SR (1977): Kawasaki
Disease in Europe. Lancet, 1, 373-
374.

Tamburlini G and Strinati R(1983)
: Kawasaki Disease in North-East
Italy. The Lancet, 1, 822-823.

Tamburlini G, Strinati R, et al.
(1984): A Two-Year Survey of Muco-
cutaneous Lymph Node Syndrome in
Northeastern Italy. Helv Paediat
Acta, 39, 319-329.

Tan AM and Choohg CT (1985):
Kawasaki Disease - Case reports and
Review of Literature. Annals Academy
of Medicine (Singapore), 14(4), 666-670.

Taneja A and Saxena U (1977): Mucocutaneous Lymph Node Syndrome: (Case Report). *India Pediatrics*, 14(11), 927-931.

Toomey KE and Kosatsky T (1985): Kawasaki Disease in an Alaskan Eskimo Child. *Alaska Medicine*, 27(2), 28-30.

Valaes T (1975): Mucocutaneous Lymph Node Syndrome (MLNS) in Athens, Greece. *Pediatrics*, 55, 295.

Wentworth P and Silver MD (1976): Fetal Mucocutaneous Lymph Node Syndrome — in Canada? *Can Med Assoc J*, 115, 299-305.

俞善昌 (1978): 皮肤粘膜淋巴结综合征 (附10例报告). *上海医学*, 5, 24.

胡仪吉 (1979): 皮肤粘膜淋巴结综合征 (11例综合报告). *中华儿科杂志*, 17(2), 107-110.

Abstract

Kawasaki Disease in the World — A Review of Literatures —

Recent literatures of observation of Kawasaki Disease in the world have been reviewed. Patients of Kawasaki Disease have been reported from 33 countries and areas except Japan: Australia, Belgium, Canada, China, Denmark, East Germany, Finland, France, Greece, India, Indonesia, Israel, Italy, Jamaica, Kuwait, Malaysia, Mexico, Netherlands, Norway, Philippines, Portugal, Singapore, South Korea, Spain, Sri Lanka, Sweden, Taiwan, Thailand, Turkey, United Kingdom, United States of America and West Germany. In these countries and areas, there have been some epidemics in countries where many patients have been reported such as Australia, Canada, Finland, Italy, South Korea, United States of America and West Germany.

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約 可能な限り文献を収集し、海外における川崎病発生状況の一端を明らかにした。